

スペース（佐々木靖浩社長）は7日、大阪工業大学と大阪市の大梅田キャンパスで「日常を創造するー毎日をクリエイティブに過ごすー株式会社スペース×大阪工業大学による講評会」を開いた。写真。第3回となる今回は、受講生約30人のプレゼンテーションと質疑応答の結果、優秀賞に奥村日咲さんの「ーよりみちー」と篠田友希さんの「非日常を日常に」が選ばれた。

優秀賞を受賞した奥村さん（左）と篠田さん



奥村さんの作品は、京都市左京

優秀賞に奥村さん、篠田さん

スペース×大阪工業大学講評会

区の府立植物公園において、半円形の回廊を設置し、商業施設を分散配置するもの。人通りの多い北山通りから寄り道感覚で立ち寄り、緑と風を感じられる商業空間とする。

奥村さんは「受賞できるとは思っておらず、素直にうれしい。自分の作品を認めてもらい、とても光栄だ」と話した。

篠田さんの作品は、大阪市のリンクス梅田において、顧客や通行人が立ち寄れる休憩スペースを提案する。大人から子どもまで幅広い年齢層が利用していることと、JR大阪駅に直結している利点を生かし、多様な人々が落ち着き、交流できる場所を整備する。

篠田さんは「講評会の3日前に自分の作品を見直したところ、クリエイティブさを感じられず、頑張っ作り直したのが功を奏したと思っ」と話した。

審査員を務めた、スペースの斎



藤俊ニクリエイティブ事業部事業部長は「きょうのプレゼンテーションを聞いて、私も多くの気付きを得た。デザインは日常の中から生まれるもの。この経験を機に、日常での気付きを大切にしてい」と総評を述べた。

この講評会は、実践的な演習を通して空間づくりの基礎を学生に学んでもらため、スペースが阪工大ロボティクス&デザイン工学部デザイン学科の3年生を対象に、2020年から毎年開いている。

